

**2016 年度（平成 28 年度）
慈愛園乳児ホーム事業報告**

【今年度の慈愛園乳児ホームの動き】

本年度の特筆すべき出来事としてあげなければならないのは4月14日と16日に起こった「熊本大地震」につきるとも言える。当時の動きとして課題とあげるものは多々あり、いかに私達が地震に対して無防備だったのか露呈される結果になった。しかし、私達がこれほど大規模災害の経験が無い中でも普段と同様の養育対応が出来たことは「九州乳児院災害協定」「ルーテル教会」その他の数々の支援を頂いた個人、団体によるものと「感謝」の一言に尽きる。また、職員自身も被災者でありながら柔軟に勤務態勢を維持させることでマンパワー不足に陥ることもなく養育継続が出来た。

「熊本地震」のそれぞれの課題に触れることは多岐に渡りすぎているため、多くを語るのを避け、ここでは本来の趣旨である「今年度における事業推進」に関わりのある内容について述べていきたい。しかしながら地震による環境的な変化は現実であり、今後の課題として含みながら考えていきたい。

まず、今年度の課題としてあげられるのは前年度、計画していたものが地震の影響で時間配分が出来ず、進捗がかなり遅れたということである。「慈愛園乳児ホーム保育士会」の起ち上げは行ったものの内容的な精査は行われずに目前の作業を消化するに留まっている。マニュアル改訂に関しても、まとまりつつあるが目標であった今年度発行することが出来なかった。その反面、ライフストーリーブックの発行については定着し、卒園する子ども達の殆どに手渡すことが出来た（短期入所に関しては渡していない）。今年度は里親委託が例年に比べ多かった為、里親のライフストーリーワークに役立てることが出来れば幸いである。食育については前年度に比べ意識的に畑の作物の収穫から調理を子ども達に伝える事が出来たと思われる。

以前からいわれている感染症に関して、今年は多くの種類の感染症が流行した。特徴としては地震直後に2種類の感染症が蔓延し職員自身も感染してしまった。地震の影響による体力の低下からか、日頃の感染症に対する意識の低下がみられ、改めて感染症に対する意識を強く持つ必要があるだろう。また、地震被害に伴う会議室兼洗濯室の解体を優先させ、11月に完了。予定していた前庭周辺の整備などは今年を行う事が出来なかった。

I. 平成28年度入退所状況、子育て支援事業の概要について

(1) 平成28年度在籍状況（平成29年1月1日現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初日	12	12	13	15	13	14	13	12	11	10	11	11	147人
退所	1	0	0	2	1	1	1	0	1	0	1	3	11人
入所	0	1	2	0	1	1	0	0	0	2	1	0	8人
末日	12	13	15	13	13	13	12	12	10	12	11	8	144人

・一時保護

(市) I,A・I,K (3/23～5/26) K,Y (4/19～6/14) I,S (4/19～7/4)

I,M (7/26～8/24) K,K (8/24～9/3) M,Y (11/11) Y,T (10/31～11/2)

(県) I,M (4/21～5/23) S,H (7/5～8/31) K,K (12/27～) K,M (12/27～)

・病虚弱児加算対象児童

K,J、S,K、I,M、M,M、K,S

・被虐待児受入加算対象児童

M,M、S,H、I,M、A,A、U,R、U,R、I,M、M,M、K,Y、N,U K,K K,M

【在籍児、入所児の傾向】

今年度、特徴的だったのは地震による避難所内での虐待通告による入所が2件あった。また、こうしたりのゆりかご関連も数件入所があり、虐待（ネグレクト、身体的）関連の入所が続いた。継続ケースにしても離婚になり姉弟別々に親権者が違う状態になり児の将来を鑑みても子どもの権利が守られているとは言えない。このようにケース自体が複雑であるにも関わらず県児相機能の対応の遅れが目立っている状態であり、児相長にも文書提出したが全く変わる気配はない。

(2) 子育て短期利用事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ショート	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	4泊
利用人数	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	3人
トワイライト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人

【トワイライト・ショーステイ】

4月の地震以降、定員超（一時保護含む）にての養育を行っていたため、ショート、トワイライトの入所受付が出来なかった。

(3) 病児保育エーネホーム利用児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	80	89	86	76	43	39	67	71	85	98	112	102	948人
H26年度	94	81	99	60	53	64	71	37	80	130	80	72	921人
H27年度	65	47	75	77	59	53	43	48	64	55	75	67	728人
H28年度	31	38	51	51	60	52	60	49	50	36	49	54	581人

【病児保育】

前年度から小規模の職員数確保の問題から3部屋利用を2部屋利用に減少させた。感染症の流行、地震の影響もあって前年度に比べヶ月平均10人ほど利用減少となった。今年度の状況でデータ比較出来ないこともあり来年度も含め利用人数の傾向を調べる必要がある。また地震により病児保育建物の老朽が大きく進行し現在、移転も含め検討中である。

(4) もうすぐパパママ教室 (6、8月は本園での感染症流行のため中止となった)

4月	6月	8月	10月	12月	2月
1名	0名	0名	1名	0名	1名

Ⅱ. 平成 28 年度における苦情解決等の状況について

－3月初日現在－

(1) 平成 28 年度苦情受付件数は 0 件

(2) 事故として扱ったケース

誤薬－7 件 病児受入伝達ミスからの感染－1 件 指挟み込み－2 件 転倒－1 件 右鎖骨骨折－1 件

(3) インシデントトラブル（ひやりはっと）

消毒方法伝達ミス－1 件 記入漏れ－3 件 配薬ミス－2 件 調理不十分－2 件 離乳段階把握ミス－1 件

今年度からアクシデント（事故）インシデント（ヒヤリハット）を分けずに事故レベルによって 0～5 の段階で把握し事故内容の共有化を進めた。しかしながら今年度の事故数は、かつてないほどの量（合計 21 件）であり 4 件の事故以外の 17 件は全て地震後の 2 ヶ月間で発生している。地震からの精神的ダメージが職員から集中力を奪ったことは間違いないと思われる。

Ⅲ. 平成 29 年度業務改善事業と課題

(1) 業務省力化

28 年度は数人の退職者を抱えることとなった。退職理由としてはそれぞれであるが、やはり乳児院の仕事の厳しさが背景にあるのは否めないだろう。法人内移動の職員を別にするると全員が本園以外での就労未経験者である。比較対象もなく自分の満足のいく仕事場と感じなかったのかもしれない。今後は誰もが魅力ある職場を目指し環境向上に努めなければならない。補充人員に関しては確保出来たがマンパワー不足は否めない。そういった点からも下記のように現在の仕事の見直し、人員配置の見直しを行っていく予定である。

- ・有給の連続消化案
- ・夜勤手当の創設案
- ・部門責任者手当の創設案
- ・会議体制の変更案

(2) 乳児ホーム保育士会と専門部会

新人職員が多くなることと来年度の第三者評価受審に合わせ処遇レベルの底上げが必要である。保育面では乳児ホーム保育士会から専門的知識については専門部会からの内部研修を共同で行う。また、マニュアルの勉強会を職員会議で行うことによりムラのない理解を促す。

(3) スーパービジョン、コンサルテーション体制について

今年度も月に1度のスーパービジョンを新職員と1年目のスタッフに対して行ってきたが、来年度は新職員も多い為、基本的な仕事を覚える事を優先し「職員目標設定」を優先して行うこととした。相談者（メンター）には今年度、スーパーバイザーの講習を完了した2名が入り目標の進捗状況を管理する。

コンサルテーションについては前年度同様に木庭心理士が行った。中長期計画作成時期に（3ヶ月毎）各職員に対して養育内容のアドバイスを頂いている。心理士の就労時間延長により個別保育も前年度より多く取り入れられるようになった。

(4) 平成29年度事業計画の骨子

- ・無理のない就労体制
- ・現在の仕事内容を見つめ直す為の勉強会
- ・乳児ホーム保育士会、専門部会の運用
- ・第三者評価